O.S.P

OSPREY SPIRITUAL PERFORMER

JOURNAL

Vol.28 August. 2019

FREE
ご自由に
お持ち帰りください。

O.S.Pプロスタッフ 霞ケ浦決戦

BASSER ALLSTAR CLASSIC WILDCARD 出場権をかけた
8人の男たちの熱い戦い

O.S.P
Osprey Spiritual Performer

O.S.Pプロスタッフ 霞ケ浦決戦

BASSER ALLSTAR CLASSIC WILDCARD 出場権をかけた8人の男たちの熱い戦い

Monthly Bassfishing Magazine
Basser
ALLSTAR CLASSIC WILD CARD

2 out of 8

国内最大級のトーナメントであるバサーオールスタークラシック。その出場権は過去の実績などで招待される選手たちと、東西2つのフィールドで開催されるワイルドカードを勝ち抜いた2人となる。

霞ヶ浦で開催される東のワイルドカードへの出場権を賭け、O.S.Pプロスタッフ8人が集まり、同レギュレーションにて予選会を6月18日に開催した。

出場枠は8人中2人。霞ヶ浦水系を知り尽くしたローカルトーナメント団体の雄や、全国のフィールドをトレイルして状況判断能力に磨きを掛けている選手もいる中、優勝を狙うか、2位で出場権の確保を狙うかも戦略の分かれ目となる。

フィールドコンディションとしては、水温20℃前後とこの時期にしては低め。例年であればスポーニングもほぼ終わり、アフターから回復したバスがエサを追い始めてもいい時期だが、霞ヶ浦でプロガイドを営む松村によると「今年はだらだらとスポーニングが続いていて、まだアフター回復という感じにはなっていない気がする」とのこと。予報では朝から南寄りの風が吹き続ける見込み。晴天が続くようなので、いかにモーニングバイトを取ってウエイトを確保するかがキーになるだろうというのが大半の選手の思惑と予想される。潮止め水門開放による減水がどこまで進むかも危惧された。

流入河川に賭ける

試合直前に降った大雨により、長らく淀んでいた流入河川の水も入れ替わってバスが口を使い始めるのでは？と予想して動いた選手もいた。ただ、どこまで登っても雨によるドチャ濁りの状態が続く可能性も否定できないため、タイムロスを覚悟してのリスキーな戦略とも言えよう。サイトフィッシングを得意とする本田は、そのリスクを覚悟で花室川の上流域までボートを進めた1人だった。また松村は各河川の河口を素早くチェックし、感触がよければ中に入るプランを選んだ。釣りのスタイルと実績から「浚渫といえばマサヤ、マサヤといえば浚渫」と言われるほどの斉藤だが、今年は浚渫の調子がイマイチのようで花室川下流部をメインエリアに。「プラでは行けば釣れるという感じ。5匹釣るまで出ない」と口にしていたが、そんな彼らの思惑に反して流入河川組から歓喜の声が聞かれることはなかった。

本湖を駆け巡る

朝一のローライトタイムを有効活用するためにスタート地点の大山周辺からゲームをスタートしたのが納谷と近藤。「アフターの魚は固まっていることが多いから、スピーディに探って移動するよ」とラウダー60などで早い展開を選んだ納谷選手に対し、近藤はプラで反応を得たバスを確実に拾っていけるようドライブクローラーのネコリグなどでスローに誘っていく。冨村も本湖のシャローエリアのプランを組んだが、開始早々に02ビートでバラしてしまう。その後もリズムがなかなか掴めなかったのか、ブッシュに巻かれてのバラシやフッキングのすっぽ抜けなどが続いてしまった。魚のポジションは把握していただけに、悔やまれる1日となっただろう。

妙岐エリアの光と闇

ファーストエリアに妙岐周辺をチョイスした松村とマシュー。先行したマシューを見て妙岐の鼻で止まった松村だが、その判断は結果として間違いだったのかもしれない。というのもマシューは02ビートで早々に3バイトを得ており、そのサイズも軒並みキロアップだったという。「濁り気味で水が動いているプロダクトエリア」という条件をプラで見出していたマシューの確信めいた何かがそこにあったのだろう。惜しくも1匹のみのキャッチに終わってしまったが、反応するバスのサイズからみても間違いなく1つの正解だったことが伺い知れる。

その後、しばらくして妙岐エリアに入ってきた近藤もドライブスティックのバックスライドで880gをキャッチ（8：15）。その1時間後には納谷がドライブクローラー5．5インチのネコリグでキャッチしていることからわかるように、エリア的にも好調だったようだが、陽が昇る前のローライトでしか喰わせられないグッドサイズと、シェードが形成されてから喰うレギュラーサイズという二分化も見て取れよう。光を味方につけたマシューの1匹はワイルドカードへの切符となったのであった。

東岸シャローの爆発力

スポーニング絡みのバスも多いことから人気エリアになるだろうと思われた東岸だが、思いの外、そちらへ向かう選手は少なかった。というのも、近年ジャカゴ裏は堆積物が溜まって浅くなったり、農薬などの影響で悪い水が溜まってしまいバスのストック量も昔に比べて少なくなったという印象があったからかもしれない。

ところが、ふだんは利根川水系を主戦場とする竹内が先入観なくプラクティスに入った前日、5匹で約6キロという釣果をスピンテールフロッグなどで叩きだしていた。それも「釣れすぎるから試合に備え抑えて」とのこと。試合当日は風で水面が騒がしくなってしまったため、ドライブビーバーのリーダーレスダウンショットやドライブスティックファット4.5インチのバックスライドで狙い2匹をキャッチ。水位が10cmほど下がったのが原因か「プラクティス時点よりもバスのストック量が減った気がする、岸際から離れてしまったようだ」というコメントもあり、竹内的には勝てるウエイトではないだろうと失意の中の帰着。しかし蓋を開けてみれば予想以上のローウエイト戦、リミットメイクこそ逃したものの粒ぞろいの3匹3340gをウェイインした竹内の優勝で幕を閉じたのであった。

FOOT STEP｜勝利を掴んだ2人の足取りを追う

少ないチャンスをモノにした竹内&マシューの戦略

竹内一浩 KAZUHIRO TAKEUCHI

❶ 5:57 狙っていた場所に別選手が。「いい所に入られちゃってるなぁ」

6:17 02ビート(セクシーピンク)で1匹目(1,100g)キャッチ。「バスが休めそうな所、アシの凹凸がある場所がいい」

7:08 「昨日キロぐらいのをここでバラしてる」ドライブビーバーのリーダーレスダウンショット(5g)でバイトあるもキャッチならず。

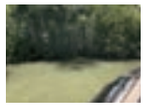
❷ 7:45 昨日、見えバスがいたので狙いに行くが不発。

❸ 8:10 だんだん雲が多くなるが「本当は晴れてもらいたい」東岸をなんかしながら02ビートとドライブビーバーで流していく。

8:36 アシ際のポケットにドライブビーバーのリーダーレスダウンショット(5g)で2匹目(1,000g)。「アフターだからアタリははっきり出ない。横に持っていくだけ」

8:51 水面までドライブビーバーを喰いにくるもミスバイト。「デカかった…」

❺ 10:10 「バイトが遠いのは水位が下がったからだと思う」前日より10cmほど減水しているとのこと。アシだけではなくジャカゴもチェックするが反応なし。



❻ 11:34 バイトが多かったエリアへ戻る。

11:54 見えバス発見。ドライブスティックファット4.5インチ、バックスライドセッティングで3匹目1,200gをキャッチ。「昨日よりバスのストック量が減った…」

❼ 13:08 02ビートにバイトあるも軽く掛かって外れてしまう。「02ビートはドピーカンでも釣れるから！」

13:40 「水位が下がってアシ際だけでなく沈んだ石などにも着いている可能性があるから」と02ビートをメインに探るが、そのままタイムアップ。

マシュー MASHU

❶ 6:02 風裏側から02ビートで流し始めると早々に2バイトあるが乗らず。

6:30 1,500gを02ビート(ディファインブラック)でキャッチ。「ありかも…と思っていたけど、前夜の思いつきが当たった！」

❷ 7:15 新利根川に入り、ドライブクローラーのジグヘッドワッキーやドライブビーバー虫チューンで流していく。

7:40 ドライブビーバー虫チューンでノンキー。その後、松屋ボート付近まで流しながら戻る。

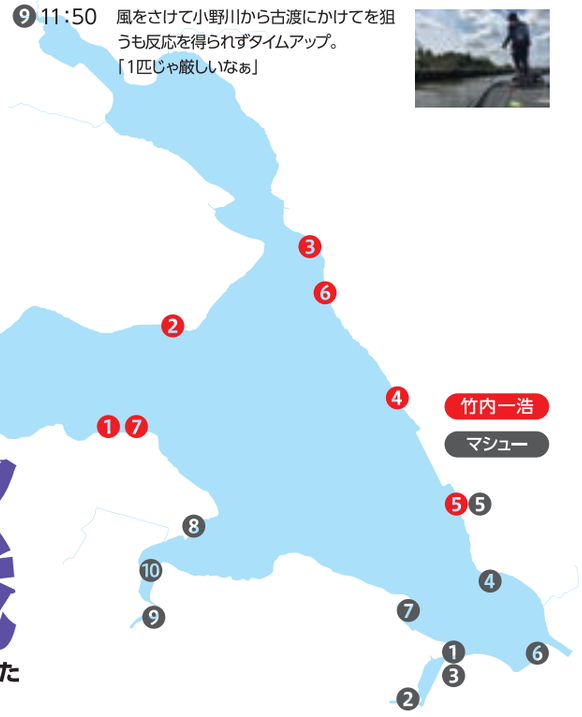
❹ 10:00 風からブロックされるジャカゴ裏やシャローのアシをドライブクローラーやハイピッチャーで狙う。

❻ 10:45 風裏を探し移動。ドライブビーバーフリーリグでテンポよく。

❼ 11:10 「西浦まで行けば風裏だが、いまから行く時間がない」アシのポケットからシェード側をハイピッチャーで流していく。

❽ 11:45 クリークに入ろうとするもタッチの差で先行者。

❾ 11:50 風をさけて小野川から古渡にかけてを狙うも反応を得られずタイムアップ。「1匹じゃ厳しいなぁ」



O.S.Pプロスタッフ 霞ケ浦決戦

BASSER ALLSTAR CLASSIC WILDCARD 出場権をかけた8人の男たちの熱い戦い

プロスタッフチョイス メインパターンとして選んだルアー&テクニック

松村 寛 HIROSHI MATSUMURA

ドライブスティックファット 4.5インチ
バックスライドセッティング

テールの付け根をカットして、そこからフックを逆刺しする独特のバックスライドセッティング。「落とすだけでなく水中で誘うためのセッティングですね。ルアーを持ち上げた際にテールが動きやすくなり抵抗感ができますので、フォールだけで喰わないバスを誘って喰わせるのに向いていますよ」。小野川のアシ際で580gをキャッチしたが、惜しくもこの1匹のみで試合を終えた。

富村貴明 TAKAAKI TOMIMURA

ドライブスティック 4.5インチ
バックスライドセッティング

ストレートフックの中でも比較的細軸のタイプをチョイス。特にバックスライドはカバーの中へ入れることも多いので、掛かりさえすればラインテンションが多少緩んでしまってもバレにくく、ファイト中にボートで接近してキャッチすることもできるよう掛かりやすさと貫通のしやすさを重視するのが富村の考え方だ。ウッドカバーのみならず鉄系の障害物もあり、ラインにダメージが入りやすいスポットを狙うことも多い霞ヶ浦水系ならではのチョイスとも言えよう。

斉藤真也 MASAYA SAITO

ドライブスティック 6インチ
バックスライドセッティング

霞ヶ浦水系でよく使われる4.5インチサイズではなく、あえて6インチをチョイスしたのは「重たいけどスローフォールする6インチの特性を活かしつつ、手返し重視でいきたかったので」とのこと。テールをカットしたのは素早く回収してもリグが回転しないようにして糸ヨレを防止するため。いつもはストレートフックを使うが、今回は直感でオフセットフックのストレートセッティングをチョイス。ロッドパワーにあわせてフックサイズは4/0を使用。

納谷宏康 HIROYASU NAYA

ドラクローラー 5.5インチ
スナッグレスネコリグ

完全に陽が昇り、シェードが形成された妙岐エリアのアシ際。倒れたアシなどの障害物も多く、小さなシェードをタイトに狙うため根掛かり回避性能に優れたスナッグレスネコリグ(シンカー1/16oz.)をチョイスした。朝一にはラウダー60でもバイトがあったが一瞬消えるだけのショートバイトでフッキングまでは到らなかったのが悔やまれる。

近藤健太郎 KENTARO KONDO

ドラクローラー 4.5インチ
ネコリグ

880gをキャッチしたのはドライブスティック4.5インチのバックスライドセッティングだが、プラクティス時点からバスは浮き気味という感触をえていたため、フォールスピードで使い分けられるようネコリグ、ダウンショット、ヘビダン、バックスライドなどを用意していたという。ドライブクローラーのネコリグにはファイト時にワームが飛ばないよう、写真のように収縮チューブを使用している。

本田賢一郎 KENICHIRO HONDA

HP3Dワッキー 5インチ
スナッグレスネコリグ

視覚的効果だけでなく、素材の張りがあり水をしっかりと押してくれるので側線にも強くアピールできるHP3Dワッキーをチョイス。マスバリ系ではなくオフセットタイプを使って根掛かりを減らし手返しを重視。基本的にはフォールで喰わせるイメージだが、ピンスポットを狙う場合には軽く引っ掛けてハングオフのくり返し、もしくはシェイクなどでも誘っていった。

O.S.Pプロスタッフ
霞ケ浦決戦

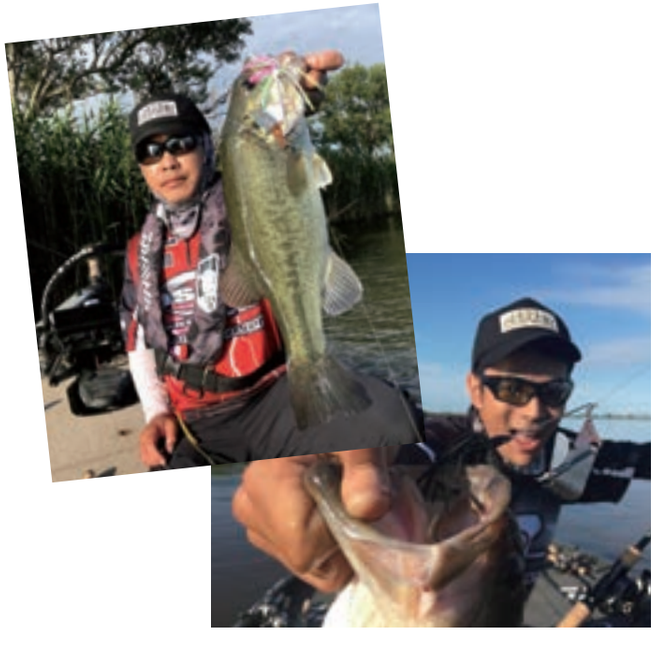
勝負を決めた 2つのBuzz Bait Pattern

ポスト～アフターのバスを狙うバズベイトパターンを紐解く

ゼロツービートという選択

竹内とマシューの戦略でキーとなったのがバズベイト。ボートが入れないようなシャローや何かに寄り添うように浮いたアフターのバスを狙うパターンだ。前日と比べて水位が約10cm下がったことに加え、風裏となるエリアも少なく表層のパターンは崩壊するかに見えたが、その中でもビッグフィッシュを反応させられるストロングなパターンの1つとして上位2人が同じルアーを選んでいた点は興味深い。その使い方と戦略を紐解いていこう。

「2019ワイルドカード霞戦O.S.P予選会」の模様は↑
https://youtu.be/FaaCQNHpbhQ



竹内の戦略～前日からの変化

前日プラでは水面が穏やかだったためスピンテールフロッグをメインにキロ以上の魚を連発していた竹内だが、試合当日は水面が波立ってしまったため音でも誘える02ビートをチョイス。浮いたバスが寄り添えるような縦ストであったりアシの茎などを探っていった。モーニングバイトでキャッチした1,100gから「バスが休めそうな凹凸があるスポット」という判断を下し、キーとなる場所はドライブビーバーのリーダーレスダウンショットやドライブスティックファットのバックスライドセッティングなどでチェックしながら戦略を組み立てていく。

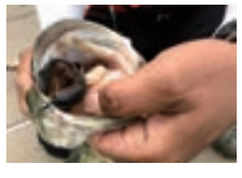
減水傾向が進んで約10cmほど下がったのが痛手となり、メインエリアとした東岸ジャカゴ裏のシャローからバスの姿が減っていくのを感じながらも、それでも残り続けるグッドサイズを狙って流し続けていき2匹を追加した。

ラストエリアに選んだのは、モーニングバイトを得た美浦のシャロー。減水したことによりバスの着き場が変わったことも考慮して、バンク際だけでなくインビジブルカバー(沈んでいる見えない石など)に寄り添っていたり浮いていたりするバスも狙えるようふたたび02ビートを手にする。「いい感じのシェードができて風裏にもなっている」とのこと。

プラの手応えからも5キロ近いウエイトがなくてはワイルドカード出場権(上位2人)は厳しいと考え、残り少ない時間でウエイトアップするため最後の賭けに出た。その思惑通り残り1時間を切った頃にグッドフィッシュがバイトしてきたものの、軽くルアーに触れただけで外れてしまった。

「02ビートはドピーカンでも釣れるルアー」と竹内が語る通り、日中のドラマ魚になりうる1匹だっただけに悔やまれるミスバイトだ。

最後に竹内へなぜトレーラーフックを付けないか?問うてみた。「トレーラーフックが掛かってくれる魚もいると思いますが、どうしてもゴミを拾ったりするケースが増えてリズムが狂うことがあるんです。それとしっかり喰ってくれているのにトレーラーフックがあることによって口の中へ入るのをジャマしてしまうような気がしで…。付けるとしたら吸いこみやすいようトレーラーワームと一緒に使いたいですが、それよりはトレーラーフック無しでもしっかり喰ってくれるバスをキャスト回数を増やして獲っていくというのが僕の考え方ですね」。主戦場とする利根川でも、ほとんどシャローしか狙わず、トップウォーターを戦略に組みこむことも多い竹内ならではの考え方と言えよう。



前日の爆釣劇から一転、減水によるタフコンディションへと変貌した霞ケ浦にアジャスト。バスのポジション変化を考えながらの戦略で絞りだした3匹は、いずれもグッドサイズだった。2匹目はドライブビーバー3.5"のリーダーレスダウンショット(5g)、3匹目はドライブスティックファット4.5"にてキャッチ。

浅すぎてアシ際までボートが入れないような所にあるアシの凹みにアプローチ。短い距離でバズベイトを立ち上げられるよう、着水した瞬間に右上写真のようにロッドを立ててリトリーブを開始する。

マシューの戦略～ドシャローを釣る

「ボートが入れないようなドシャローにあるアシの凹みに入っているのでは?」と思い付いたのは前日の晩。プラで試したパターンではなかったが、得てしてこういう思いつきが功を奏することは多い。まだアフターを引きずっているため、ゆっくり丁寧に!というのは鉄則だが、その戦略にノーシンカーや軽めのネコリグだけでなくバズベイトも組みこんだのが大会最大魚となった49cm1,540gをキャッチできた要因に違いない。

「とにかくゆっくり巻きたいんで、リールのギヤ比も5.5のものを用意しました。それと、ちょっとしたコツがあるんです」とのこと。惜しくも1匹のみのキャッチとなってしまったが、1エリアで3バイトを得た02ビートの威力と、その釣り方に興味が湧き、大会終了後に実釣をまじえて釣り方を詳しく聞いたみることにした。

「バスは水面を意識しているとはいえ、まだまだ本調子ではないですよね。なので、ゆっくり巻くだけでなく水面に出すまでのアクションにも注目してください」と02ビートをキャストする。「早く立ち上げようとして着水後すぐにリールを巻きたくなりますが、そこにキモがあります。リーリングだけで立ち上げるのではなく、ロッドを立ててあげることで短い距離の中でバズが立ち上がるんですよ」。

シャローフラットの沈み物に着いたバスではなく、アシのポケットなどのピンスポットに入ったバスはルアーを追う距離も短い。短距離で喰わせなくてはならない場所ならではの使い方だろう。

「今回も立ち上がってすぐに水面直下で渦を巻くようなバイトをしてくれたんですがキャッチは1匹だけでした」と語るマシューだったが、ルアーチョイスから使い方まで完璧にこなしていただけに悔いの残る結果だった。モーニングバイトをラッキーフィッシュと呼ぶ人も少なくないが、その運を引き寄せるためには閃きと経験も必要であることは間違いない。この使い方については動画でも公開されているので、ぜひご覧いただきたい。

Result(リミット5匹)

竹内一浩	3匹	3,340g
マシュー	1匹	1,540g
近藤健太郎	1匹	880g
松村　寛	1匹	580g
納谷宏康	1匹	540g
斉藤真也	0匹	0g
富村貴明	0匹	0g
本田賢一郎	0匹	0g

※敬称略

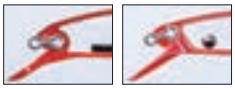
NEW ARRIVALS

8・9月発売の新製品をご紹介

NEW ASURA II 925SP アシュラ II 925SP

Length | 92.5mm Weight | 8.4g Suspend Ring size | #2 Hook size | #8
Color | 18 Price | 1,700円（税別）

モールドライフが尽きた初代に代わり転生 9月発売予定



浮き姿勢は水平気味に

初代は頭下がり姿勢でダート時の動きだしを良くしていたが、深い所からバスを浮かせる力を強くするため水平寄りの姿勢に。もっとも体高のある部分を前寄りにし、なおかつ一体成形リップを採用することで頭側の空気室を大きくして浮力を持たせた。バスを浮かせて喰わせる性能がより高まったとお考えいただきたい。

リップ形状の変更

初代はリップがやや立ち気味で、付け根を細くすることによりダートさせやすさであったり、バタツキすぎないアクションにしてあった。アシュラ2はリップ面積を広くして、しっかりと水を受けボディを横っ飛びさせるパワーと鋭さがあり、タダ巻きでもボディに負けず抑えの利いたタイトウォブルアクションになっている。

初代アシュラと大きく変えることなく、それでいて初代の発売当時は無かったドゥルガやヴァルナといった前後のサイズがラインナップされたことで、より明確にそれらや初代との使い分けがしやすいようなアクションを持たせるというのがアシュラ2の開発コンセプトになりました。

ステインやマディでも使えるアクション――もともとアシュラは誰でもダートさせやすいのが特長でしたが、濁った水域を考えると一瞬のタメがあった後にダートしてくれるアクションが効くことも多いので、そちらの味付けを入れたというのがダートアクションに関する違いです。

発売当時の位置付けとしてはクリアでもステインでも使いやすいダートとただ巻きを両立したアクションではありましたが、それから約20年の時が経った今、数あるミノーの中で考えると若干バタつく部類に位置付けが変わっていきました。ただ巻きアクションは初代を踏襲したウォブル主体のタイト寄りなアクションに仕上げています。

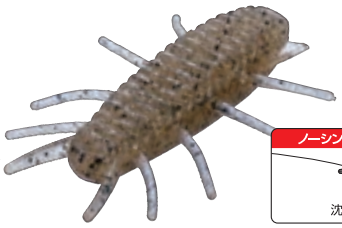
ウエイトが0.1g軽くなったにも関わらず飛距離は初代とほぼ同等。条件によってはわずかに及ばないこともありますが、必要十分のキャスタビリティを備えており、使用感に影響するほどではありません。

今でも性能の衰えを感じない初代から、より現代のバスをバイトさせられる要素を盛り込んだアシュラ2。初代アシュラをお持ちの方は、新旧アクションの違いもお楽しみいただければと思います。

NEW HP BUG 1.5” HP バグ 1.5inch.

Length | 1.5inch. Color | 13 Count | 8 Price | 780円（税別）

so cool, so easy ! 8月上旬発売



ノーシンカー オフセットフック #3〜#2

沈めて使う基本セッティング

ノーシンカー マス針 #6〜#2

ショートバイト対策 or
フォールスピードを抑えたい時のセッティング

ライトキャロライナリグ

水中を漂わせるセッティング
スイミングでアーム&レッグがピリピリ震える

ノーシンカー Hayabusa N・S・S #1

枝などに吊るして水面を叩き波紋でバスを寄せる

ダウンショットリグ

速く狙いたいレンジに届かせ、
ステイやフォールで誘うセッティング

ラージもスモールも爆釣中！

高比重ワームにシリコンスカートを刺すチューニングは昔からよくおこなわれていましたが、サイトフィッシングが進化する中で専用アイテムとしての沈むムシ系ワームの必要性が高まってきました。HPバグが目指したのは「使いやすく、簡単に釣れる」こと。ゆっくり沈めたいけど遠くまで飛ばしたいという相反する性能を持たせるため、サイズ感とパーツの数、比重を考えた結果、このセッティングが最適だという解にたどり着いたのです。

リーリングした際に余計なウォブンロールアクションをせず、アームとレッグが震えながらI字引きできるのが特長の1つ。マスバリを使ってもひっくり返らないよう腹側に高比重、背中側に低比重素材を採用。

またマスバリを使用したスナッグレスセッティングにおいては腹側で水面を叩きますが、ボディの体積に対して接水面が大きいため1.5インチというボディサイズでありながらもコーリングアップする力は強くなっています。チョウチン釣りでは水面から離した時に空中でイレギュラーなアクションをするのも特長で、スレきったバスに対しても非常に効果的となっています。

より詳しい使い方は製品ページ→

https://www.o-s-p.net/products/hpbug/